

学校教育目標		重点目標(中・長期的目標)
生きる力の育成と地域を担う人間づくり		
①共に生きる力を養う(自己理解・他者理解を含め、他者と共存していく力を高める) ②夢をかなえる力を鍛える(問題解決能力とともに、社会性及び人格を向上させる) ③地域と関わる力を育む(地域への関心を高め、理解し、積極的に関わる力を育成する)		①地域からの信頼を高め、地域を担う人材を育成する ②人間としての在り方、生き方を深める教育を展開する
今年度の重点目標		
I 基本的な生活習慣の確立及び定着とともに、体験学習を通して自尊感情や規範意識を育成する II 計画的な進路指導を実践する III 地域に活動をアピールし、理解を得る IV いじめ・体罰のない、明るく安心・安全な学校をつくる V 授業改革の取組を実践する		
総合評価	成果と課題	改善策と向上策
生徒指導上の課題はあるが、生徒の自律を促しながら、予防する指導を粘り強く行い、多くの生徒は落ち着いた環境の中で学校生活を送ることができている。また、自尊感情の育成、キャリア形成につながる体験学習を計画的に実施することができた。授業改善の取組では、授業規律の確立・定着に併せて、生徒の探究的な学びにつながる授業内容や指導方法について研修を行った。ホームページの定期更新、石楠花通信の発行、茅野高フォーラムでの生徒発表や地域の方との意見交換会等、教育活動の情報発信、広報も工夫して取り組んだ。	教育活動や生徒の活動状況を積極的に発信し、地域や中学校に一定の理解は得られているが、地域へ浸透させていくことが課題である。授業改善の取組では、全職員が生徒の探究的な学びにつなげる必要性は理解できているが、日常の授業で継続的に実践するには情報共有や研究が引き続き必要である。キャリア教育の一環となっている地域での体験学習等を通して、人間力を育成し進路に対する意識をさらに高めることが課題である。	生徒の探究的な学びにつながる、またICTを活用する授業改善に向けた研修・研究を引き続き全職員で行う。また、生徒の問題解決能力や社会性を向上させる取組、キャリア教育の一層の充実に向けて、地域での体験学習の改善を地域の方々とも協力して検討していきたい。

1 教育活動について

対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	改善策と向上策	学校評議員評価
教育課程	新教育課程の検討及び運営	<ul style="list-style-type: none"> 新教育課程について検討する。また、現教育課程を実態に即して運営することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍をふまえて現教育課程で変更すべき点、及び2022年度から始まる新教育課程を検討することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 新教育課程に関しては、現状で考え得る案を作成したが、入学生数や生徒の希望、そのときの状況に合わせるため今後も検討が必要である。 探求などの細部を係と連携して考えていくことが必要である。 	A:80% B:20%
学習指導	学習環境の確立と きめ細かな学習指導の実践	<ul style="list-style-type: none"> 授業向上週間を設定するなどして、基本的な学習習慣と学習環境の確立に向けて努力できたか。 授業及び学習環境のユニバーサルデザイン化に取り組むことができたか。 生徒の探究的な学びにつながる教員の授業力の向上を目的として、授業公開を実施できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の影響を受け定期的な授業向上週間を設けることができなかったが本格的に学校が再開された6月を重点期間として服装や学習習慣の定着を図ることができた。 ICT機器の活用や教材の工夫等、本校職員が日々の授業のなかで創意工夫していることに、ユニバーサルデザイン的な取り組みが多く含まれていることを共有できた。 春秋に加え、12月にも公開授業を行った。事前申込要としたことでスムーズな対応ができた。また、初任研をメインとした授業研究を行い、教員相互の研鑽に役立てることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ニューノーマルに向けて変化に対応しなければいけない状況になっている。特にICT機器の活用は日々の授業だけでなくリモート授業やオンラインコンテンツの充実などさまざまな学習シーンにおいて必要とされている。そういったニーズに応えられるよう校内研修等の充実が今後とも必要である。 現在の取り組みを学校全体・教科全体としての組織的な取り組みへ発展していきたい。 教員相互の研鑽は、特別な期間を設けなくても可能であるので、日々の学習活動の中で実施できれば良い。地域等に対しては、今年度の様に行事等を活用して行くと共に、中学生向けの公開日を検討していきたい。 	A:100%
特別活動	生徒会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会役員に自治意識を涵養し、生徒自身がリーダーシップをとって全校を牽引していくよう指導することができたか。 生徒一人一人が、生徒会の構成員である自覚を持ち、委員会活動や行事などに積極的に参加する姿勢を身につけることができるよう指導できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自ら服装改善の呼びかけを行っている。直接注意をしたり、放送で全校に呼びかけたりと、自分たちで方法を工夫しながら活動を進めていくことができるようになった。有志で行う美化活動や挨拶運動にも積極的に参加する役員生徒が増え、そのような様子を全校生徒が目にする機会が増えたことも良いことだと思う。役員が全校を引っ張り、学校や自らの高校生活のためにより良い活動ができるようになるのではと期待する。 課題としては、動き出すことが少し苦手なことである。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会役員としてやりたいことは決められるので、次の段階として、まず何から始めるかということを誰かが提案できるようになりたい。 自ら始めた活動を、最後までしっかりやりきる。 服装改善を目指し活動できているので、継続できるようにしたい。 	A:60% B:40%

生徒指導	社会性、協調性及び正しい判断力の育成と主体的な行動の促進	・社会のルール、マナー及び規律を遵守させることができたか。	・全職員で校門等での朝の挨拶運動、巡回を行った。生徒会の連携もしながら実施できた。 ・授業におけるルール等の徹底を継続して行った。 ・全体として落ち着いているのに対し、一部の生徒のルール違反が目立った。	・基本的生活習慣や他者との関わり合いにおける配慮等、各ホームルームや学年集会等で生徒に話をし、粘り強く伝えていく努力をする。 ・各授業において、授業準備や挨拶に始まる基本的な学習習慣を身につけさせるよう、教科担当者が工夫していく。 ・高校生としてのありようについて、粘り強く示していく。	A:50% B:50%
	生徒・保護者・地域社会との信頼関係の構築	・家庭や地域との連携を図った指導をすることができたか。	・家庭通知、学校評議員会、諸会議等で本校の生徒指導の基本的な考え方、近況や課題を伝え、理解と協力を求めた。事例発生時、各担任から迅速な家庭連絡が行われ、指導へ円滑に移すことができた。	・服装・ゴミのポイ捨て・自転車の乗車マナーなどについて、地域のみならず苦情をいただき、誠実に速やかに対応することに努めた。少しずつ改善されているように思う。今後も生徒会活動などを通じて生徒に呼びかけを行っていきたい。	A:80% B:20%
	個のニーズに応じた手厚い指導	・関係機関等と連携し、個のニーズに応じた指導・支援ができたか。 ・特別支援教育の充実に向けた校内体制の構築や職員研修ができたか。	・支援の必要な生徒に対するSCによる面談は迅速な対応ができ、適切に実施することができた。必要に応じて行政機関やSSW,医療との情報交換を行った。諏訪養護学校巡回相談・教育相談の助言により、個別生徒の実態把握から支援の実施へとつながることができた。進路係と連携して就労支援も行った。 ・毎週の学年会・係会によるチーム支援の体制は整ってきた。校内関係職員間、更には外部関係機関との連携も強くなって	・新入生に関する情報交換を中学校とより密度高く行えるようにする。 ・個人情報の取り扱いと適切な管理の方法を検討し、必要ときに情報共有できるようにする。 ・校内の支援体制とSC、SSW、関係機関と連携した体制は整ってきている。チームとしての支援を意識し、職員のスキルアップのための研修等すすめていきたい。	A:100%
進路指導	生徒の多様な進路希望への対応	・生徒面談や保護者懇談会の際に進路アンケートを活用して生徒個々の進路希望を把握することができたか。	・生徒1人1人が多岐の進路選択から自分に合った進路を選択できるよう進学就職を織り交ぜたガイダンスや見学を計画し努めた。小論文・面接指導は、多くの職員が関わり生徒の特性を引き出しながら対応できた。	・今年度は進学希望者が多く、補習や学力向上など個々の状況に応じて個別対応した。その反面、全体的に基礎学力やコミュニケーション力の低下により、就職試験において苦戦したケースがあった。生徒の進路意識の向上と、基礎学力を補いながら進路実現に結びつくよう検討していく。	A:87% B:13%
		・計画的な進路ガイダンス、小論文(作文)指導、面接指導、補習を実施できたか。	・1月に2年生の就業体験が予定されていたがコロナ禍の影響を受け次年度に延期となった。他学年も同様に校外での進路学習は変更や中止となるものが多数あったことがとても残念である。	・可能な限り企業との交流を確保することができた。ただ、どうにもならないことも多々あったことが残念である。 ・求人票の見方の指導を徹底し、学校からの情報を生徒が理解できるように力をつける。また、保護者にも子供との会話を促し、生徒の進路希望や進路活動の様子を知ってもらう必要性を強く感じた。	A:20% B:80%
	・就職に役立つ情報を提供し、事業所見学を奨励することができたか。	・学校説明会、オープンキャンパスへは参加できる時に積極的に参加させるよう声がけをした。路掲示、保護者懇談会など、保護者に対しても情報を発信することが出来た。	・学校説明会や、校内進路ガイダンスに参加いただく学校との情報提供を、最新の情報として生徒に発信、更新していくことが大切。 ・2学年の頃から、奨学金や特待生、指定校の説明をして理解を求め、計画的に進学に向けての準備が出来るようサポートすることが大切。	A:60% B:40%	
	キャリア教育の推進	・体験学習等を計画的かつ効果的に実施できたか。	・体験学習をはじめ、施設体験、学校・職場見学、様々な進路に触れる機会から、最終的に高校生企業説明会までスムーズに繋げてこられたと感じる。	・茅野高フォーラムで、各学年より、総合学習やキャリア教育を通して何を学び、いかに下の学年に学んで欲しいか伝える取組をした。また、コミュニケーション能力、会話能力の低下については、今後も大きな課題として、ワークショップや面談を多く取り入れるなど機会を増やししながら指	A:100%

2 学校運営について

地域との連携	地域への広報活動	・学校案内や石楠花通信等での情報発信や、中学校での説明会が実施できたか。 ・ホームページの定期的な更新ができたか。	・コース制の変更については、11月の学校説明会で行ったが、その後の周知が難しかった。「石楠花通信」は年2回発行した。生徒の活躍や学校活動がより伝わりやすいよう、記事の工夫ができた。 ・ホームページをこまめに更新できた。	・茅野高フォーラムで地域の方々のお話を伺うと、本校のイメージも大分変化してきたように感じる。これを機会と捉え、生徒会や部活動などで地域へ出て行く活動を増やし、その取り組みを情報発信していくことが必要であろう。中学生への広報活動も、その延長にある。 ・ホームページの更新をしやすいようなコンテンツを設けるのも効果的かと思われる。	A:80% B:20%
	地域の人材、施設の活用	・総合的な探求の時間や福祉保育コースなどの特色ある授業への協力要請・外部講師の依頼、また、部活動等への指導要請ができたか。	・就業体験、校外施設体験、福祉体験等を行った。地元で活躍されている様々な職業の方とつながりいただくことができた。	・地域の方の御協力を仰ぎ、さらに連携を進めていきたい。 ・いずれの取り組みも、事前学習が大きなポイントになる。講師を迎えて学ぶ、地域へ出て行って体験するなどの場合によって必要な知識やスキルがある。目標と心構えを丁寧に準備することで得られる成果も変わってくるので、より計画的な取り組みが求められる。	A:100%
校内研修	職員研修の実施	・校内初任研の実施ができたか。 ・校内研修や学校視察等を実施できたか。	・特別支援教育研修、生徒育成方針等の3つの方針及び探究的な学習に関する研修、県内校の研究授業への参加も積極的に行われた。本校での研究授業は、初任者の公開授業にあわせて実施した。	・生徒の探究的な学びを目指す授業研究と実践は引き続き実施していく必要がある。また、授業へのICT活用についても、初任者を中心としながら全職員が積極的に取り組めるよう、研修等を計画する必要があると考える。	A:100%